

なっていることがわかった。そこで今回は厚生労働省のH16年度都道府県別特定疾患治療研究医療受給証所持者数（HP）を参照し、ベーチェット病のH15、16年の両年が良好に輸入されていると思われる9県（青森県、山形県、福島県、富山県、福井県、山梨県、奈良県、高知県、長崎県）のデータを抽出し、予後の検討が可能かどうか試行した。まずH15年度新規・更新データをH16年度更新データにリンケージさせ、受給継続者と非継続者を確認した。H15年度旧申請書での入力データとH15年度のStage不明（32例）は分析から除外した。ベーチェット病の重症度はI（軽症）～V（重症）のStageで分類されている（資料参照）。受給継続者の内、H15年度とH16年度でStageに「変化なし」、軽症から重症になった例を「悪化」、重症から軽症になった例を「軽快」、Stage「不明」、H16年度にデータがない人を「非継続」としてH15年度のStage（重症度）別に例数と割合を確認した。

#### （倫理面への配慮）

臨床調査個人票は全て匿名化されており、研究班の分担研究者が個人を特定することはできない。

#### C. D. 研究結果と考察

分析に用いた9県のデータはH15年度新規H16年度更新連結データ（64例）、H15年度更新H16年度更新連結データ（1,525例）、計1,589例である（表2）。分析対象1,589例の内、H15年度からH16年度の1年間の予後に変化なしだったのは1,174例（73.9%）、軽快していたのは94例（5.9%）、悪化は97例（6.1%）であった。非継続者（H15年度にデータあり、H16年度になし）は212例（13.3%）であった。

H15年度のStage別に1年間の予後と比較すると、Stage Iでは1年後に「悪化」した割合が7%、「軽快」した割合は2.5%であった。Stageが高くなるに従って「悪化」の割合は減少し、Stage IVでは「悪化」は僅か1.1%であった。「軽快」に転ずる割合はStage Vが最も高く23.8%、次にStage IIの13.3%であった。非継続率はStageによって

異なり、H15年度に「症状なし」だった受給者216例の1/3に当たる71例（32.9%）は翌年継続していない。これらの多くは症状が安定しているために申請しなかったのではないかと予想される。Stage I～IVの非継続率は5.1%～10.8%で、非継続率が最も低かったのはStage IIIの5.1%であった。そして生命予後に危険のあるStage V（21例）で非継続率は再び33.3%と高くなっていた。ベーチェット病の予後を検討するためには継続した患者の変化を捉えるだけでは十分でない。非継続の理由（治癒、死亡等）を確認することによって、より正確に予後を検討することが可能となる。

今回は1年間の予後を検討したが今後2～3年間の予後、また症状や治療法によって予後が異なるかどうか検討したい。

#### E. 結 論

臨床調査個人票データベースを用いてベーチェット病患者予後の検討が可能かどうか試行した。分析に用いたデータは1,589例、1年間のStage（重症度）の変化を確認した。H15～16年度の1年間にStageに「変化なし」だったのは全体で1,174例（73.9%）、「軽快」94例（5.9%）、「悪化」97例（6.1%）であった。非継続者（H15年度にデータあり、H16年度になし）は212例（13.3%）であった。H15年度のStage別に予後を確認したところH15年度「症状なし」だった216例の内、32.9%が非継続であった。Stage I～IVの非継続率は5.1%～10.8%、生命予後に危険のあるStage Vの非継続率は33.3%と高かった。Stageが高くなるに従って悪化の割合は減少していた。今後2～3年間の予後および症状や治療法によって予後が異なるかどうか検討したい。ベーチェット病の予後を検討するためには受給継続した患者の変化を捉えるだけでなく、非継続の理由（治癒、死亡等）を確認することが重要である。

#### F. 健康危険情報

特記事項なし。

## G. 研究発表

## 1. なし

## 2. 学会発表

1. QOL study of Behcet's disease patients in Japan. M Kurosawa, Y Inaba, T Matsuba, A Tamakoshi, F Kaneko, A Nishibu, T Kawamura. 12<sup>th</sup> International Conference on Behcet's Diseases, 20-23, Sep., Lisbon, Portugal.
2. Analysis of the electronic clinical database of patients (2001-2004) with Behcet's disease receiving financial aid for treatment in Japan. Y Inaba, M Kurosawa, F Kaneko, T Makino, M Nagai. 12<sup>th</sup> International Conference on Behcet's Diseases, 20-23, Sep., Lisbon, Portugal.
3. ベーチェット病の臨床調査個人票データの分析. 黒沢美智子, 稲葉 裕, 金子史男, 永井正規. 第65回日本公衆衛生学会総会, H18年10月富山.

4. ベーチェット病患者のQOL調査. 黒沢美智子, 稲葉 裕, 松葉 剛. 第71回日本民族衛生学会総会, H18年11月那覇.
5. 臨床調査個人票データベースを用いたベーチェット病の予後の検討. 黒沢美智子, 稲葉 裕, 金子史男, 永井正規. 第77回日本衛生学会総会, H19年3月大阪.

## H. 知的財産権の出願, 登録状況

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし

表1 ベーチェット病のH13-17年度全国分臨床調査個人票入力状況

年度	データ数 (入力率)		受給者数
	H17入手分	H18入手分	
H13	578 (3.3%)	580 (3.3%)	17,578
H14	2,534 (15.1%)	2,534 (15.1%)	16,834
H15	8,610 (51.8%) (旧65)	11,049 (66.4%) (旧65)	16,632
H16	8,424 (51.3%)	9,746 (59.4%)	16,417
H17	-	8,043	

表2 H15年度の重症度別に見たH16年度の予後

	Stage	人数	H 16 年 度				
			軽 快	変化なし	悪 化	Stage 不明	非継続
H 15 年 度	症状無し	216	-	121 (56.0%)	23 (10.6%)	1 (0.5%)	71 (32.9%)
	I	674	17 ( 2.5%)	533 (79.1%)	48 ( 7.1%)	3 (0.4%)	73 (10.8%)
	II	278	37 (13.3%)	188 (67.6%)	19 ( 6.8%)	4 (1.4%)	30 (10.8%)
	III	118	12 (10.2%)	94 (79.7%)	4 ( 3.4%)	2 (1.7%)	6 ( 5.1%)
	IV	282	23 ( 8.2%)	229 (81.2%)	3 (1.1%)	2 (0.7%)	25 ( 8.9%)
	V	21	5 (23.8%)	9 (42.9%)	-	0	7 (33.3%)
計		1589	94 ( 5.9%)	1174 (73.9%)	97 (6.1%)	12 (0.8%)	212 (13.3%)

資料 ベーチェット病の重症度

- Stage I 眼症状以外の主症状（口腔内アフタ性潰瘍，皮膚症状，外陰部潰瘍）のみられるもの
- Stage II Stage I の症状に眼症状として虹彩毛様体炎が加わったもの  
Stage I の症状に関節炎や副睾丸炎が加わったもの
- Stage III 網脈絡膜炎がみられるもの
- Stage IV 失明の可能性があるか失明に至った網脈絡膜炎およびその他の眼合併症  
活動性，ないし重症の後遺症を有す特殊病変（腸管，血管，神経ベーチェット）
- Stage V 生命予後に危険のある特殊病型  
中等度以上の知能低下を有す進行性神経ベーチェット病

# ベーチェット病患者の QOL 調査ベースラインデータ分析結果と Follow up 調査経過報告

分担研究者 稲葉 裕 (順天堂大学医学部衛生学)  
共同研究者 黒沢美智子 (順天堂大学医学部衛生学)  
玉腰 暁子 (国立長寿医療センター病院)  
金子 史男 (福島医科大学医学部皮膚科)  
西部 明子 (福島医科大学医学部皮膚科)  
川村 孝 (京都大学・保健管理センター)  
松葉 剛 (順天堂大学医学部衛生学)

## 研究要旨

目的はベーチェット病患者の QOL の変化に影響する因子を分析することである。本調査はベーチェット病研究班と共同で企画した。本調査は2003年に実施した全国疫学調査二次調査対象施設担当医と対象患者に予後・QOL 調査参加を呼びかけ、同意の得られた対象者について特定疾患の疫学に関する研究班と共同で実施した。ベースライン調査は2003年11月に開始し、担当医記載の調査票と患者本人が記入した調査票は事務局において ID でリンクし分析した。QOL 調査票は SF-36v2 を用いた。H17年度の報告に続いて、今回は罹病期間、合併症の有無、病型、最近1ヶ月間の活動性や治療内容、症状について分析した。罹病期間は長い方がいくつかの QOL 尺度のスコアが低く、合併症を有する人は「身体機能」尺度のスコアが低く、病型は完全型の方が不全型より「身体機能」尺度のスコアが低かった。最近1ヶ月間の治療については経口ステロイド投与でいくつかの QOL 尺度スコアが低かったが、他の薬剤については QOL との関連ははっきりしなかった。最近1ヶ月間の活動性は「有り」が「なし」に比べて QOL が低く、特に口腔内アフタ性潰瘍、関節炎、外陰部潰瘍、消化器疾患、結節性紅斑様皮疹の症状が重い人の QOL が低かった。眼症状の活動性と QOL は関連が認められなかった。血管病変、副睾丸炎、中枢神経病変は症状の重い人が僅かで、分析は困難であった。本年5-6月には Follow up 調査を開始した。12月11日現在、患者214件(67.7%)、担当医233件(73.7%)から回収され、そのうち172例(54.4%)がリンケージできた。今後、尺度別にスコアの変化に影響する項目を分析する予定である。

## A. 研究目的

ベーチェット病患者の QOL の変化をフォローアップし、影響する因子(臨床症状の変化等)を分析することである。

## B. 研究方法

本調査は2003年に実施した全国疫学調査二次調査対象施設担当医と対象患者に予後・QOL 調査参加を呼びかけ、同意の得られた対象者について特定疾患の疫学に関する研究班(主任研究者:永

井正規)と共同で実施した。QOL ベースライン調査は2003年11月に開始し、回収された担当医記載の調査票と患者本人が記入した QOL 調査票は事務局において ID でリンクし、個人が同定できるデータを入力せず分析することとした。QOL 調査票は SF-36v2 を用いた。本調査は1-2年に1回程度 Follow up し、約5年間追跡する予定で開始した。

H17年度当班報告書にベーチェット病患者の QOL を SF-36v2 の国民標準値と比較し、重症度、年齢、薬剤投与後の症状、主症状の有無によって QOL が異なるかどうか分析した結果を報告した。

今回は罹病期間、合併症の有無、病型、最近1ヶ月間の活動性や治療内容、症状について分析した。

フォローアップ調査は2006年5～6月に316人の患者と医療機関82施設担当医を対象に開始した。対象患者には依頼状、QOL調査票(SF-36)、ベースラインデータの分析結果、返信用封筒一式、担当医には依頼状、臨床症状に関する調査票、同意書のコピー、ベースラインデータの分析結果、返信用封筒一式を送付した。

### C. D. 研究結果と考察

健康関連QOL尺度として用いられているSF-36v2<sup>1)</sup>には「身体機能」、「日常役割機能(身体)」、「体の痛み」、「全体的健康感」、「活力」、「社会生活機能」、「日常役割機能(精神)」、「心の健康」の8つの下位尺度があり、各々日本人の国民標準値と比較できる。国民標準値に基づくスコアリングでは、各下位尺度は同じ平均点(50点)と同じ標準偏差(10点)を持つように得点化されている<sup>2)</sup>。

昨年度の報告ではベースライン調査対象者のQOLは8つの下位尺度全てが国民標準値より低く、重症度別に見ると6つの尺度で軽症より中等度・重症でQOLが低下していた。また年齢が高いほど国民標準値の年齢層別平均値との差が顕著で、高齢のベーチェット病患者のQOLはより低い傾向にあった。薬剤投与後の症状別にQOLを比較したところ治癒した人のQOLは高かったが、軽快、進行、無反応の順にQOLは低く、特に薬剤投与後に無反応の対象者のQOLは顕著に低く、重症度よりもむしろ薬剤投与後の症状とベーチェット病患者のQOLは強く関連していることがわかった。主症状の有無でQOLに差が認められたのは結節性紅斑様皮疹と外陰部潰瘍でいずれも症状無しより有りの方がQOLは低かった。

今回は罹病期間、合併症の有無、病型、最近1ヶ月間の治療内容や活動性、症状について分析した結果を報告する。

罹病期間は「10年未満」、「10-20年未満」、「30年以上」に分けて比較したところ、長期の方が「身体機能」、「日常役割機能(身体)」、「体の痛み」

尺度のスコアが低いという結果であった。これらは年齢の影響や病状の進行によるものかも知れない。

合併症については「有り」が「身体機能」のスコアが低かったが他の尺度との関連は認められなかった。病型は完全型が「身体機能」のスコアが低かったが、他の尺度について関連は認められなかった。

最近1ヶ月間の治療内容については経口ステロイドを投与している人の「身体機能」、「日常役割機能(身体)」、「体の痛み」、「全体的健康感」、「社会生活機能」のスコアが低かった。コルヒチン投与の関連は認められなかった。シクロスポリンについては投与している方が「身体機能」のスコアが高く、「日常役割機能(身体)」はスコアが低いという結果であった。その他の免疫抑制剤については関連が認められず、ステロイド局所療法は使用者の「身体機能」、「体の痛み」のスコアが使用していない人よりも高かった。非ステロイド系消炎剤の使用者は「身体機能」、「日常役割機能(身体)」、「体の痛み」、「活力」、「社会生活機能」、「日常役割機能(精神)」のスコアが低いという結果であった。ミノサイクリンやインターフェロン療法は使用者が少なく分析困難であった。

最近1ヶ月間の活動性とQOLについての結果を図1に示す。「身体機能」と「活力」以外の尺度は全て活動性ありの方がスコアは低かった。最近1ヶ月間の眼症状については「症状なし」、「軽い」、「やや重い」、「重い」、「とても重い」の5つの回答別に分析したが関連は認められなかった。口腔内アフタ性潰瘍は症状の「やや重い+重い」人で「体の痛み」、「全体的健康感」、「活力」、「日常役割機能(精神)」のスコアが低かった(図2)。外陰部潰瘍は症状が「やや重い+重い」人で「身体機能」、「日常役割機能(身体)」、「体の痛み」、「活力」、「社会生活機能」、「日常役割機能(精神)」のスコアが低かった。結節性紅斑様皮疹は「やや重い～とても重い」人で「体の痛み」、「全体的健康感」のスコアが低かった。関節炎については症状が「やや重い～とても重い」人は全尺度のスコアが低かった(図3)。消化器疾患は「やや重い～とても重い」人の「身体機能」、「日常役割機能(身体)」、「活力」、「社会生活機能」、「日常役割機

能(精神)」のスコアが低かった(図4)。副睾丸炎、血管病変、中枢神経病変は症状の重い人は僅かで分析は困難であった。

Follow up 調査は対象者の転居先不明、医師の転勤や病院の診療科閉鎖、病院の建て替え、対象患者転院、他の疾患にて死亡と約1割は追跡不可能であったが、2006年12月11日現在患者214件(67.7%)、担当医233件(73.7%)から回収され、そのうち172例(54.4%)がリンケージできた。

フォローアップ調査の分析対象172例のベースライン時の QOL スコアと全体のベースラインデータ316例と比較したところほぼ同スコアであった。今後、尺度別にスコアの変化(良くなった人、悪くなった人)に影響する項目(臨床症状の変化)を分析する予定である。

## E. 結 論

昨年度に引き続き、ベーチェット病患者の QOL フォローアップ調査のベースラインデータを分析した。罹病期間は長い方がいくつかの QOL 尺度のスコアが低く、合併症を有する人は「身体機能」尺度のスコアが低く、病型は完全型の方が不全型より身体機能」尺度のスコアが低かった。最近1ヶ月間の治療については経口ステロイド投与でいくつかの QOL 尺度スコアが低かったが、他の薬剤については QOL との関連ははっきりしなかった。最近1ヶ月間の活動性は「有り」がなし」に比べて QOL が低く、特に口腔内アフタ性潰瘍、関節炎、外陰部潰瘍、消化器疾患、結節性紅斑様皮疹の症状が重い人の QOL が低かった。しかし眼症状の活動性とは関連が認められなかった。また血管病変、副睾丸炎、中枢神経病変は症状の重い人が少なく分析は困難であった。

2006年5-6月に開始した Follow up 調査は12月11日現在、患者214件(67.7%)、担当医233件(73.7%)から回収され、そのうち172例(54.4%)がリンケージできた。今後、尺度別にスコアの変化(良くなった人、悪くなった人)に影響する項目(臨床症状の変化)を分析する予定である。

## 謝 辞

本研究は高橋奈津子先生、福原俊一先生、鈴鴨よしみ先生(京都大学大学院医学研究科医療疫学分野)との共同研究であり、多くの助言を頂きました。また調査に参加協力下さった担当医の先生及び患者の皆様に深謝いたします。

## 文 献

- 1) 編著 福原俊一, 鈴鴨よしみ. 健康関連 QOL 尺度 SF-36v2日本語版マニュアル, 2004.

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

なし

### 2. 学会発表

1. QOL study of Behcet's disease patients in Japan. M Kurosawa, Y Inaba, T Matsuba, A Tamakoshi, F Kaneko, A Nishibu, T Kawamura. 12<sup>th</sup> International Conference on Behcet's Diseases, 20-23, Sep., Lisbon, Portugal.
2. Analysis of the electronic clinical database of patients (2001-2004) with Behcet's disease receiving financial aid for treatment in Japan. Y Inaba, M Kurosawa, F Kaneko, T Makino, M Nagai. 12<sup>th</sup> International Conference on Behcet's Diseases, 20-23, Sep., Lisbon, Portugal.
3. ベーチェット病の臨床調査個人票データの分析. 黒沢美智子, 稲葉 裕, 金子史男, 永井正規. 第65回日本公衆衛生学会総会, H18年10月 富山.
4. ベーチェット病患者の QOL 調査. 黒沢美智子, 稲葉 裕, 松葉 剛. 第71回日本民族衛生学会総会, H18年11月那覇.

## H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

図1 SF-36の国民標準値に基づくスコアリングによるベーチェット病患者の最近1ヶ月の活動期/非活動期別 QOL

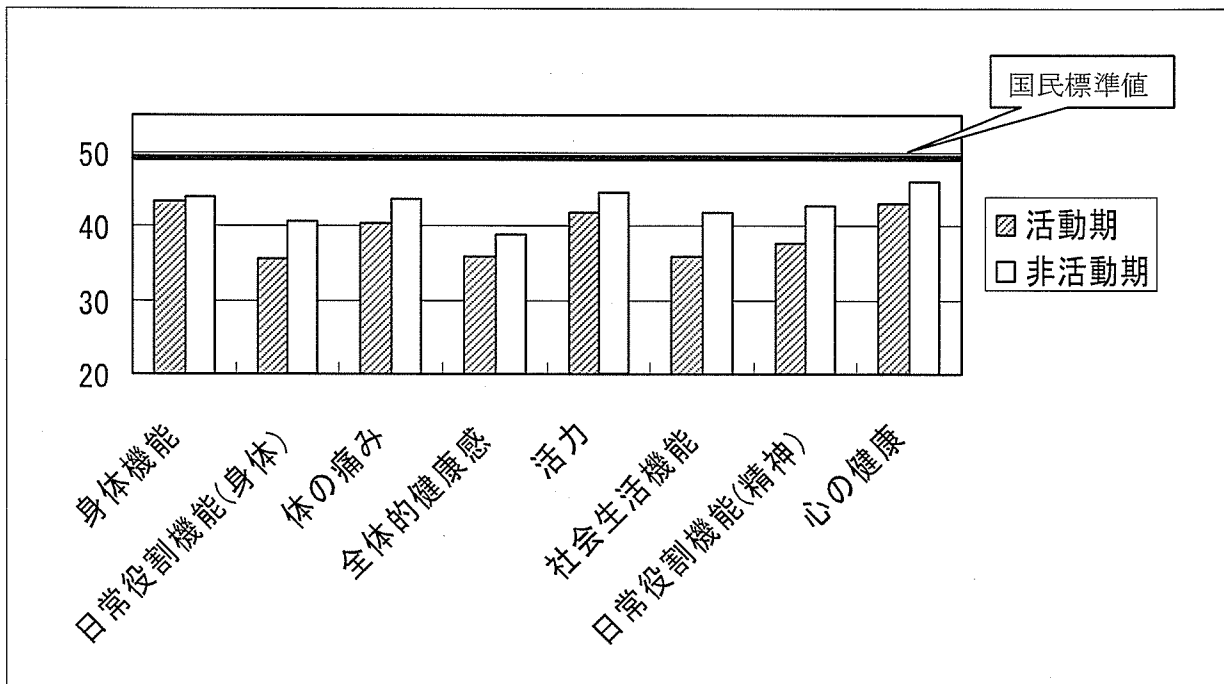


図2 SF-36の国民標準値に基づくスコアリングによる口腔内アフタ性潰瘍最近1ヶ月の活動性と QOL

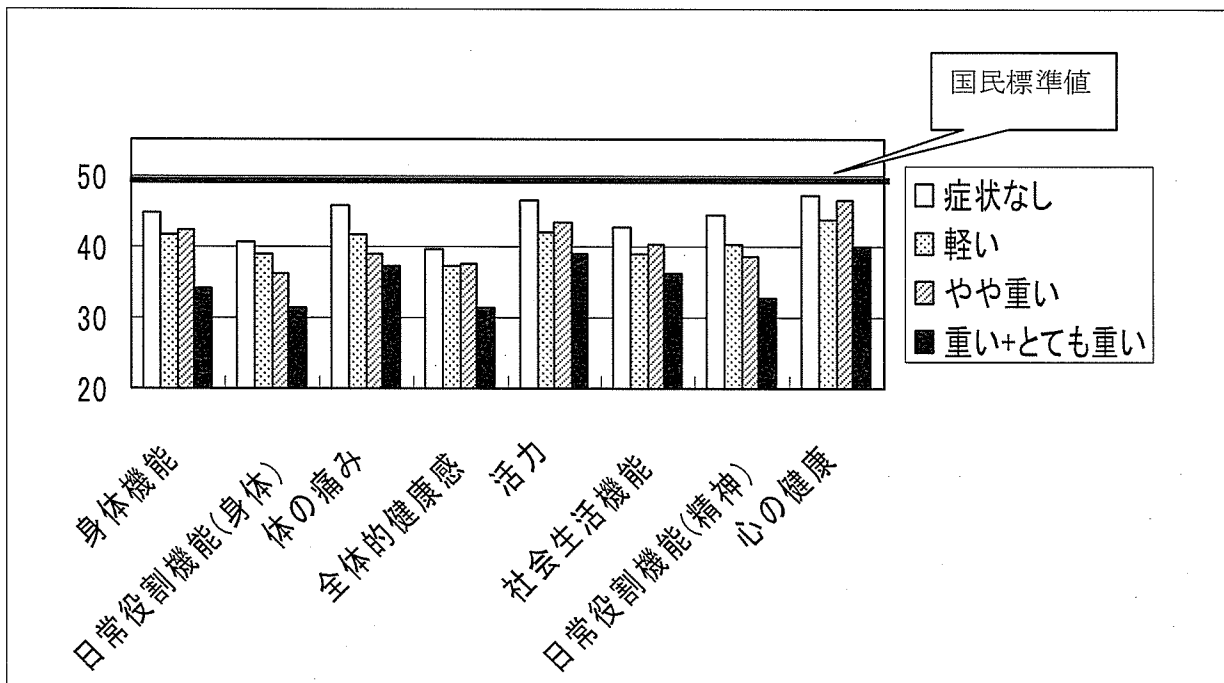


図3 SF-36の国民標準値に基づくスコアリングによる関節炎の最近1ヶ月の活動性と QOL

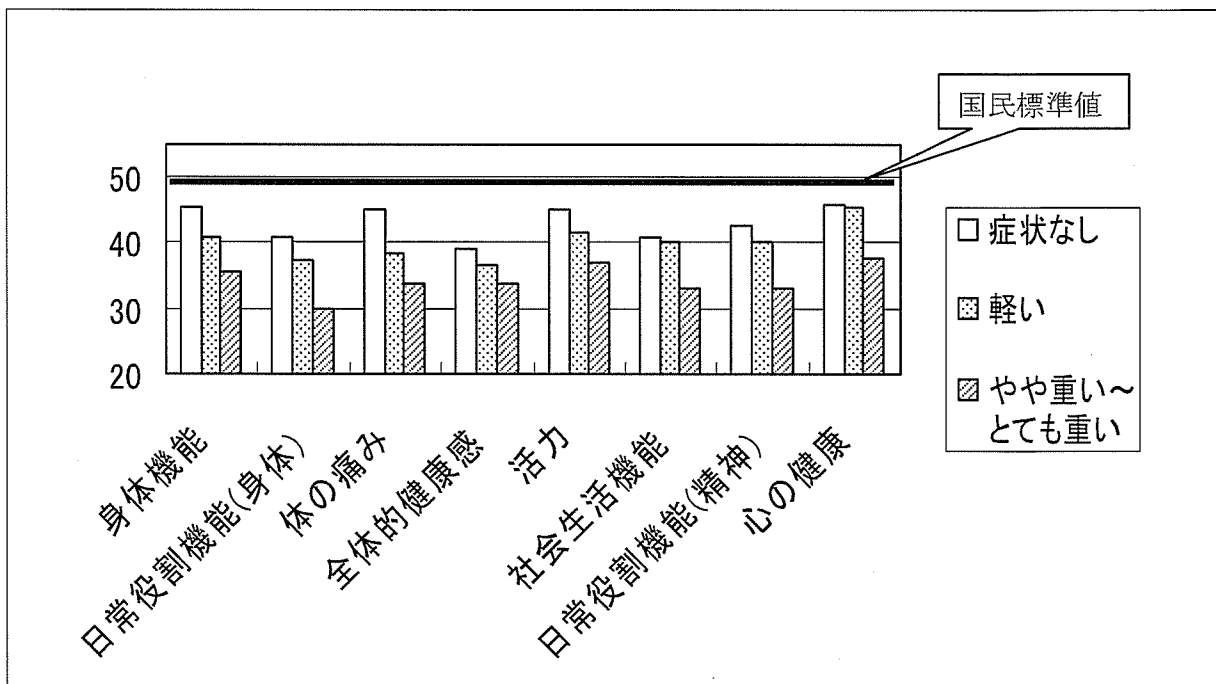
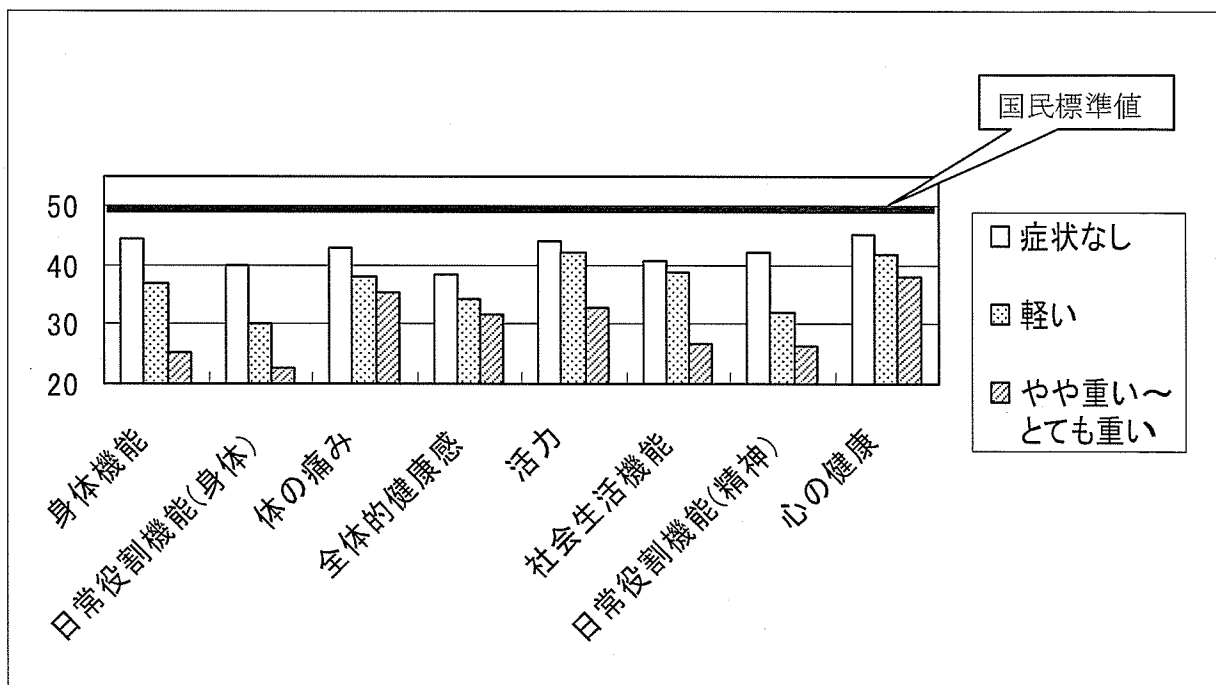


図4 SF-36の国民標準値に基づくスコアリングによる消化器病変の最近1ヶ月の活動性と QOL





# ベーチェット病眼病変の国際疫学に関する研究

分担研究者 大野 重昭 (北海道大学大学院医学研究科眼科学分野)  
研究協力者 北市 伸義 (北海道大学大学院医学研究科眼科学分野)  
宮崎 晶子 (北海道大学大学院医学研究科眼科学分野)  
岩田 大樹 (北海道大学大学院医学研究科眼科学分野)  
南場 研一 (北海道大学大学院医学研究科眼科学分野)

## 研究要旨

目的と方法：我が国では最近、ベーチェット病新規発症者数の減少、治療の進歩による視力予後の改善が報告されている。しかし、ベーチェット病の臨床像と視力予後に関して、眼病変に注目した大規模国際疫学調査はこれまでに行われたことがない。そこで今回我々はベーチェット病眼症状の臨床像を世界規模で把握するため、同一の調査用紙を用いて性別、発症時年齢、HLA-B51の有無、最終受診時視力等について国際疫学調査を行った。調査は世界132カ所のぶどう膜炎専門外来を有する眼科センターに依頼し、14カ国25施設から1,465人分の臨床データを得た。

結果：男女比は男性68.3%、女性31.7%、発症時平均年齢は27.5歳であった。HLA-B51陽性率は62.0%、最終視力が0.1未満の視力予後不良率は23.3%であった。国別ではインド、イラン、日本は視力予後不良、イタリアは視力予後良好であった ( $P < 0.01$ )。

まとめ：過去最大規模のベーチェット病眼症状国際疫学調査を実施した。全体の1/4で視力予後が0.1未満の不良となっていた。男性は女性より視力予後が不良であった。国によって臨床像に違いがあり、世界規模での眼症状の正確な把握と視力予後向上のためにさらなる臨床的・基礎的研究を積み重ねる必要がある。

## A. 研究目的

我が国では最近、ベーチェット病新規発症者数の減少、治療の進歩による視力予後の改善が報告されている。しかし、ベーチェット病の臨床像に関して、眼病変に注目した大規模国際疫学調査はこれまでに行われたことがなく、それが我が国だけの傾向であるか世界規模の傾向であるのかは不明である。また、地域・民族により眼病変に違いがある可能性がある。そこで今回我々は世界各地の眼科センターと協力して世界規模のベーチェット病眼病変の臨床像を調査・検討した。

## B. 研究方法

同一の調査用紙を用いて性別、発症時年齢、HLA-B51の有無、最終受診時視力等について国

際疫学調査を行った。調査は世界132カ所のぶどう膜炎専門外来を有する眼科センターに依頼し、臨床データを得た。

## C. 研究結果

ドイツ、イギリス、ポルトガル、イタリア、ギリシャ、トルコ、モロッコ、チュニジア、ヨルダン、イラン、サウジアラビア、インド、オーストラリア、日本の14カ国25施設から1,465人分の臨床データを得た。平均経過観察期間は10.26 (SD8.43) 年であった。男性68.3%、女性31.7%と男女比は2 : 1で男性が多かった。平均発症年齢は27.4 (SD10.38) 歳であった。発症年齢は日本では34歳であったが他国では全て20歳代後半であった。HLA-B51遺伝子は62%の患者が陽性であり、最も頻度が高いギリシャでは82%、最も低

いイギリスでは43%であった。最終受診時視力が0.1未満の不良例は23.3%であった。特にインド、イラン、日本で視力予後不良例が多く、イタリアが最少であった ( $p < 0.01$ )。

#### D. E. 考察と結論

眼病変に焦点をあてた当該調査では過去最大規模の国際調査が実施できた。ベーチェット病患者の約1/4で現在なお視力予後が極めて不良であり、我が国でも視力予後はまだまだ厳しい現状が明らかになった。また、国・地域によりベーチェット病眼病変の臨床像は異なり、さらにデータの解析を進める必要があることが明らかにされた。

#### F. 健康危険情報

特記事項なし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

なし

##### 2. 学会発表

第12回国際ベーチェット病学会 2006年9月  
ポルトガル・リスボン

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

---

## IV. 研究成果の刊行に 関する一覧表

---

## 研究成果の刊行に関する一覧表

## 書 籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
金子史男, 尾山徳孝	Behcet 病診断の落とし穴 —類似疾患を 誤診するな—	西岡 清	皮膚科診療のコツと 落とし穴, ②疾患 I	中山書店	東京	2006	124-125
金子史男	乾癬	大関武彦, 古川 漸, 横田俊一郎	今日の小児治療指針, 第14版	医学書院	東京	2006	625
北市伸義, 大野重昭	虹彩炎	樋田哲夫	眼科プラクティス7 糖尿病眼合併症の治 療方針	文光堂	東京	2006	162-164
北市伸義, 大野重昭	ぶどう膜炎の分類と頻度		すぐに役立つ眼科診 療の知識 基礎から わかるぶどう膜炎	金原出版	東京	2006	3-7
磯貝恵美子, 磯貝 浩	茶抽出エキスの歯周病予 防効果	本好茂一	ペットフードの開発	シーエム シー出版	東京	2006	115-127
磯貝恵美子	犬のライム病		動物の感染症(第2 版, ハイブリッド CD付)	近代出版	東京	2006	243
鈴木 登	原発性免疫不全症候群		在宅看護・介護のた めの難病ガイド 改 訂第2版	日本医学 出版	東京		印刷中
鈴木 登	特発性好酸球増多症候群		在宅看護・介護のた めの難病ガイド 改 訂第2版	日本医学 出版	東京		印刷中
鈴木 登	免疫グロブリン		臨床アレルギー学 改訂第3版	南江堂	東京		印刷中
川島秀俊	免疫抑制剤の使い方	水木信久	すぐに役立つ眼科診 療の知識	金原出版	東京		予定
川島秀俊	ぶどう膜の疾患		眼科 TEXT	医歯薬出 版	東京		予定
川島秀俊	第1章28. ぶどう膜炎の スクリーニングではどん な検査をすればよいのか		眼科実践Q&A	南江堂	東京		予定
川島秀俊	第3章69. ぶどう膜炎の 診断と治療方針は?		眼科実践Q&A	南江堂	東京		予定
川島秀俊	71. ステロイドを大量に 投与するときの副作用管 理の仕方を教えてください		眼科実践Q&A	南江堂	東京		予定
川島秀俊	コラム:フルオレセイン の皮内反応が陽性に出た 場合, 一生FAGは不可 ですか? 精査する方法 は?		眼科実践Q&A	南江堂	東京		予定
川島秀俊	ぶどう膜炎		看護のための疾患・ 症候事典	メヂカル フレンド	東京		予定
佐々木爽, 水木信久	HLA 検査	水木信久	基礎からわかるぶど う膜炎	金原出版	東京	2006	100-104
伊藤亜紀子, 水木信久	髄液検査	水木信久	基礎からわかるぶど う膜炎	金原出版	東京	2006	108-110
上石智子, 水木信久	皮内反応	水木信久	基礎からわかるぶど う膜炎	金原出版	東京	2006	111-113

ベーチェット病に関する調査研究

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
西田朋美, 水木信久	ベーチェット病	水木信久	基礎からわかるぶど う膜炎	金原出版	東京	2006	147-155
蓮見由紀子, 水木信久	乾癬に伴うぶどう膜炎	水木信久	基礎からわかるぶど う膜炎	金原出版	東京	2006	178-180
林孝彦, 水木信久	ヘルペス性虹彩毛様体炎	水木信久	基礎からわかるぶど う膜炎	金原出版	東京	2006	247-252
Mizuki N, Inoko H, Ohno S	Recent advance in the pathogenesis of Behcet's disease	Bang D	Proceedings of the 9th International Conference on Behcet's Disease				in press
Mizuki N, Inoko H	Behcet's Syndrome	Bridges S. L. and Ball G. V.	Immunogenetics. Vasculitis Textbook	Oxford University Press	Oxford		in press
中村晃一郎	皮脂欠乏性皮膚炎		今日の治療指針2006 年度版	医学書院	東京		印刷中
大野重昭, 北市伸義, 南場研一, 猪子英俊, 水木信久, 太田正穂	Behcet 病におけるシク ロスポリン治療		免疫の進化 —シクロスポリン20 年の軌跡—	医薬ジャ ーナル社	大阪	2006	196-203

## 雑 誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Kawakami Y, Oyama N, Nishibu A, Nakamura K, <u>Kaneko F</u>	A case of giant aneurismal benign fibrous histiocytoma	Clin Exp Dermatol	31 (3)	456-457	2006
Nakamura K, Kawakami Y, Oyama N, <u>Kaneko F</u> , Abe H, Sagara H, Ohto H	A case of sclerodermatous graft-versus-host disease following autologous peripheral blood cell transplantation	J Dermatol	33 (2)	135-138	2006
Yanagihori H, Oyama N, Nakamura K, Mizuki N, Oguma K, <u>Kaneko F</u>	Role of IL12B promoter polymorphism in Adamantiades-Behcet's disease susceptibility: an involvement of Th1 immunoreactivity against Streptococcus sanguinis antigen	J Invest Dermatol	126 (7)	1534-1540	2006
Oyama N, Setterfield JF, Powell AM, Sakuma-Oyama Y, Albert S, Bhogal BS, Vaughan RW, <u>Kaneko F</u> , Challacombe SJ, Black MM	Bullous pemphigoid antigen II (BP180) and its soluble extracellular domains are major autoantigens in mucous membrane pemphigoid: the pathogenic relevance to HLA class II alleles and disease severity	Br J Dermatol	154 (1)	90-98	2006
Chen X, Katoh Y, Nakamura K, Oyama N, <u>Kaneko F</u> , Endo Y, Fujita T, Nishida T, Mizuki N	Single nucleotide polymorphisms of Ficolin 2 gene in Behcet's disease	J Dermatol Sci	43 (3)	201-205	2006
金子史男, 尾山徳孝	Behcet 病— Behcet 病を疑う皮疹とは？	Medicina	43 (10)	1724-1727	2006
金子史男, 尾山徳孝	皮膚免疫学入門	Cosmetic stage	1 (10)	96-98	2006
金子史男	最終講義— Behcet 病と口腔内レンサ球菌について—	皮膚臨床	48 (12)	1653-1660	2006
Kitamura M, Kitaichi N, Namba K, Kitamei H, <u>Ohno S</u>	Correspondence – Reply to Comparative study of two sets of criteria for the diagnosis of Vogt-Koyanagi-Harada Disease	Am J Ophthalmol	141	778-779	2006
Kase S, Saito W, Yokoi M, Yoshida K, Furudate N, Muramatsu M, Saito A, Kase M, <u>Ohno S</u>	Expression of glutamine synthetase and cell proliferation in human idiopathic epiretinal membrane	Br J Ophthalmol	90	96-98	2006
Harada C, Nakamura K, Namekata K, Okumura A, Mitamura Y, Iizuka Y, Kashiwagi K, Yoshida K, <u>Ohno S</u> , et al.	Role of apoptosis signal-regulating kinase 1 in stress-induced neural cell apoptosis in vivo	Am J Pathol	168	261-269	2006
Kase S, Namba K, Kitaichi N, <u>Ohno S</u>	Epstein-Barr virus-infected cells in the aqueous humor originated from nasal NK/T cell lymphoma	Br J Ophthalmol	90	244-245	2006
Kase S, Yoshida K, Ohgami K, Shiratori K, Suzuki Y, Nakayama K, <u>Ohno S</u>	Expression of cdc2 and p27 (KIP1) phosphorylation in mitotic cells of the human retinoblastoma	Int J Mol Med	17	465-468	2006
Kase S, Yoshida K, Sakai M, Ohgami K, Shiratori K, Kitaichi N, Suzuki Y, Harada T, <u>Ohno S</u>	Immunolocalization of cyclin D1 in the developing lens of c-maf <sup>-/-</sup> mice	Acta Histochem	107	469-472	2006
Jin XH, Ohgami K, Shiratori K, Suzuki Y, Koyama Y, Yoshida K, Ilieva I, Tanaka T, Onoe K, <u>Ohno S</u>	Effects of blue honeysuckle (Lonicera caerulea L.) extract on lipopolysaccharide-induced inflammation in vitro and in vivo	Exp Eye Res	82	860-867	2006

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Suzuki Y, Ohgami K, Shiratori K, Jin X H, Ilieva I, Koyama Y, Yazawa K, Yoshida K, Kase S, <u>Ohno S</u>	Suppressive effects of astaxanthin against rat endotoxin-induced uveitis by inhibiting the NF- $\kappa$ B signaling pathway	Exp Eye Res	82	275 - 281	2006
Kitaichi N, Ariga T, Kase S, Yoshida K, Namba K, <u>Ohno S</u>	Usefulness of quantifying serum KL-6 levels in the follow-up of uveitic patients with sarcoidosis	Graefe's Arch Clin Exp Ophthalmol	244	433 - 437	2006
Kase S, Yoshida K, Ohgami K, Shiratori K, Nakayama K I, <u>Ohno S</u>	Phosphorylation of p27 (KIP1) in the mitotic cells of the corneal epithelium	Curr Eye Res	31	307 - 312	2006
Jin X H, Ohgami K, Shiratori K, Suzuki Y, Hirano T, Koyama Y, Yoshida K, Ilieva I, Iseki K, <u>Ohno S</u>	Inhibitory effects of lutein on endotoxin-induced uveitis in lewis rats	Invest Ophthalmol Vis Sci	47	2562 - 2568	2006
Kitamei M, Iwabuchi K, Namba K, Yoshida K, Yanagawa Y, Kitaichi N, Kitamura M, <u>Ohno S</u> , Onoe K	Amelioration of experimental autoimmune uveoretinitis (EAU) with an inhibitor of nuclear factor kappa B (NF-kappaB), pyrrolidine dithiocarbamate	J Leukocyte Biol	79	1193 - 1201	2006
Kitaichi N, Shimizu T, Honda A, Abe R, Ohgami K, Shiratori K, Shimizu H, <u>Ohno S</u>	Increase in macrophage migration inhibitory factor levels in lacrimal fluid of patients with severe atopic dermatitis	Graefe's Arch Clin Exp Ophthalmol	244	825 - 828	2006
Kitaichi N, Ariga T, <u>Ohno S</u> , Shimizu T	Acute unilateral conjunctivitis after rubella vaccination: the detection of the rubella genome in the inflamed conjunctiva by reverse transcriptase-polymerase-chain reaction	Br J Ophthalmol	90	1436 - 1437	2006
Kase S, Kitaichi N, Furudate N, Yoshida K, <u>Ohno S</u>	Increase expression of mucinous glycoprotein KL-6 in human pterygium	Br J Ophthalmol	90	1208 - 1209	2006
Kitamei H, Kitaichi N, Yoshida K, Nakai A, Fujimoto M, Kitamura M, Iwabuchi K, Miyazaki A, Namba K, <u>Ohno S</u> , Onoe K	Association of heat shock protein 70 induction and the amelioration of experimental autoimmune uveoretinitis in mice	Immunobiology			in press
Kase S, Kitaichi N, Namaba K, Miyazaki A, Yoshida K, Ishikura K, Ikeda M, Nakashima T, <u>Ohno S</u>	Elevation of serum KL-6 levels in patients with tubulointerstitial nephritis and uveitis (TINU) syndrome	Am J Kidney Dis			in press
Nakamura K, Harada C, Okumura A, Namekata K, Mitamura Y, Yoshida K, <u>Ohno S</u> , Yoshida H, Harada T	Effect of p75NTR on the regulation of photoreceptor apoptosis in the rd mouse	Molecular Vision			in press
北市伸義, <u>大野重昭</u>	眼科領域の痛みの鑑別と治療	痛みと臨床	6	361 - 366	2006
新名美次, 北市伸義, <u>大野重昭</u>	今どきのアメリカ眼科保健診療事情	日本の眼科	77	111 - 112	2006
新名美次, 北市伸義, <u>大野重昭</u>	今どきのアメリカ眼科開業事情	日本の眼科	77	379 - 380	2006
<u>大野重昭</u>	ヘルスフードによる抗炎症作用	Nano Ophthalmology		13 - 15	2006

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Andoh Y, Fujii S, Iwabuchi K, Yokota T, Inoue N, Nakai Y, Mishima T, Yamashita T, Nakagawa T, Kitabatake A, <u>Onoé K</u> , Tsutsui H	Lower prevalence of circulating natural killer T cells in patients with angina: a potential novel marker for coronary artery disease	Coron Artery Dis	17	523-528	2006
Chan C-FR, Wang M, Li N, Yanagawa Y, <u>Onoé K</u> , Lee JJ, Nel AE	Pro-oxidative diesel exhaust particle chemicals inhibit LPS-induced dendritic cell responses involved in T-helper differentiation	J Allergy Clin Immunol	118	455-465	2006
Shimada S, Nishida R, Takeda M, Iwabuchi K, Kishi R, <u>Onoé K</u> , Minakami H, Yamada H	Natural killer, natural killer T, helper and cytotoxic T cells in the decidua from sporadic miscarriage	Am J Reprod Immunol	56	193-200	2006
Takagi D, Iwabuchi K, Maeda M, Nakamaru Y, Furuta Y, Fukuda S, Van Kaer L, Nishihira J, <u>Onoé K</u>	Natural killer T cells ameliorate antibody-induced arthritis in macrophage migration inhibitory factor transgenic mice	Int J Mol Med	18	829-836	2006
Namba K, Sonoda K H, Kitamei H, Shiratori K, Ariyama A, Iwabuchi K, <u>Onoé K</u> , et al.	Granulocytapheresis in patients with refractory ocular Behcet's disease	J Clin Apheresis	21	121-128	2006
Saito Y, Yanagawa Y, Kikuchi K, Iijima N, Iwabuchi K and <u>Onoé K</u> .	Low-dose lipopolysaccharide modifies the production of IL-12 by dendritic cells in response to various cytokines	J Clin Exp Hematopathol	46	31-36	2006
Yanagawa Y, and <u>Onoé K</u>	Distinct regulation of CD40-mediated interleukin (IL)-6 and IL-12 production via mitogen-activated protein kinase (MAPK) and nuclear factor $\kappa$ B inducing kinase (NIK) in mature dendritic cells	Immunology	117	526-535	2006
Jin X H, Ohgami K, Shiratori K, Suzuki Y, Koyama Y, Yoshida K, Ilieva I, Tanaka T, <u>Onoé K</u> et al.	Effects of blue honeysuckle ( <i>Lonicera caerulea</i> L.) extract on lipopolysaccharide-induced inflammation in vitro and in vivo	Exp Eye Res	82 (5)	860-867	2006
Naito M, Yamazaki T, Tsutsumi R, Higashi H, <u>Onoé K</u> , Yamazaki S, Azuma T and Hatakeyama M	Influence of EPIYA-repeat polymorphism on the phosphorylation-dependent biological activity of <i>Helicobacter pylori</i> CagA	Gastroenterology	130	1181-1190	2006
Kitamei H, Iwabuchi K, Yanagawa Y, Yoshida K, Namba K, Kitaichi N, Kitamura M, Ohno S, and <u>Onoé K</u>	Amelioration of experimental autoimmune uveoretinitis (EAU) with an inhibitor of nuclear factor $\kappa$ B (NF- $\kappa$ B), pyrrolidine dithiocarbamate	J Leukoc Biol	79	1193-1201	2006
Nyambayar D, Iwabuchi K, <u>Onoé K</u>	Development of <i>V<math>\alpha</math>14 invariant</i> natural killer T cells is arrested at a transition from CD4 <sup>low</sup> NKT1.1 <sup>-</sup> to CD44 <sup>high</sup> NK1.1 <sup>-</sup> in the thymus of <i>alymphoplasia</i> mice	Microbiol and Immunol			in press
Nyambayar D, Iwabuch K, Hedlund E, Murakawa S, Shirai K, Iwabuchi C, Kon Y, Miyazaki Y, Yanagawa Y, <u>Onoé K</u>	Characterization of NKT-cell hybridomas expressing invariant T-cell antigen receptors	J Clin Exp Hematopathol			in press
<u>Onoé K</u> , Yanagawa Y, Minami K, Iijima N, Iwabuchi K	Th1 or Th2 balance regulated by interaction between dendritic cells and NKT cells	Immunol Res			in press



発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Kitamei H, Kitaichi N, Yoshida K, Nakai A, Fujimoto M, Kitamura M, Iwabuchi K, Miyazaki A, Namba K, Ohno S, <u>Onoé K</u>	Association of heat shock protein 70 induction and the amelioration of experimental autoimmune uveoretinitis in mice	Immunobiology			in press
Clingan J M, Yanagawa Y, Iwabuchi K, <u>Onoé K</u>	Effect of T helper 1 (Th1)/Th2 cytokine on chemokine-induced dendritic cell functions	Cell Immunol			in press
Nakanishi K, <u>Inoko H</u>	Combination of HLA-A24, -DQA1*03, and -DR9 contributes to acute-onset and early complete {beta}-cell destruction in type 1 diabetes: longitudinal study of residual {beta}-cell function	Diabetes	55	1862 - 1868	2006
Ohtsuka M, Ishii K, Kikuti YY, Warita T, Suzuki D, Sato D, Kimura M, <u>Inoko H</u>	Construction of mouse 129/Ola BAC library for the targeting experiments using E14 embryonic stem cells	Genes Genet Syst	81	143 - 146	2006
Shiina T, Ota M, Shimizu S, Katsuyama Y, Hashimoto N, Takasu M, Anzai T, Kulski JK, Kikkawa E, Naruse T, Kimura N, Yanagiya K, Watanabe A, Hosomichi K, Kohara S, Iwamoto C, Umehara Y, Meyer A, Wanner V, Sano K, Macquin C, Ikeo K, Tokunaga K, Gojobori T, <u>Inoko H</u> , Bahram S	Rapid Evolution of MHC Class I Genes in Primates Generates New Disease Alleles in Man Via Hitchhiking Diversity	Genetics	173	1555 - 1570	2006
Renard C, Hart WE, Sehra HK, Beasley HR, Coghill PC, Howe KL, Harrow JL, Gilbert JGR, Sims S, Rogers JR, Ando A, Shigenar A, Shiina T, <u>Inoko H</u> , et al.	The Genomic Sequence and Analysis of the Swine Major Histocompatibility Complex	Genomics	88	96 - 110	2006
Kawashima M, Tamiya G, Oka A, Hohjoh H, Juji T, Ebisawa T, Honda Y, <u>Inoko H</u> , Tokunaga K	Genomewide association analysis of human narcolepsy and a new resistance gene	Am J Hum Genet	79	252 - 263	2006
Sano K, Shiina T, Shimizu S, Anzai T, Kulski JK, <u>Inoko H</u>	Novel cynomolgus macaque MHC-DPβ1 polymorphisms in three South-East Asian populations	Tissue Antigens	67	297 - 306	2006
Ikwaki I, Kulski JK, <u>Inoko H</u>	Regulation of CD93 cell surface expression by protein kinase C isoenzyme	Microbiol Immunol	50	93 - 103	2006
Dunn DS, <u>Inoko H</u> , Kulski JK	The association between non-melanoma skin cancer and a young dimorphic Alu element within the major histocompatibility complex class I region	Tissue Antigens	68	135 - 146	2006
Reinders J, Rozemuller EH, van der Weide P, Oka A, Slootweg PJ, <u>Inoko H</u> , Tilanus MG	Genes in the HLA region indicative for head and neck squamous cell carcinoma	Mol Immunol (Epub)			2006
Luo M, Kim H, Kudrna D, Sisneros NB, Lee SJ, Mueller C, Collura K, Zuccolo A, Buckingham EB, Grim SM, Yanagiya K, <u>Inoko H</u> , et al.	Construction of a nurse shark (Ginglymostoma cirratum) bacterial artificial chromosome (BAC) library and a preliminary genome survey	BMC Genomic	7	106	2006
Itoh Y, <u>Inoko H</u> , Kulski JK, Sasaki S, Meguro A, Takiyama N, Nishida T, Yuasa T, Ohno S, Mizuki N	Four-digit allele genotyping of the HLA-A and HLA-B genes in Japanese patients with Behcet's disease by a PCR-SSOP-Luminex method	Tissue Antigens	67	390 - 394	2006

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Mizuta I, Satake W, Nakabayashi Y, Ito C, Suzuki S, Momose, Nagai Y, Oka O, <u>Inoko H</u> , et al.	Multiple candidate gene analysis identifies a-synuclein as a susceptibility gene for sporadic Parkinson's disease	Hum Mol Genet	15	1151-1158	2006
Kawahara M, Rikihisa Y, Lin Q, <u>Isogai E</u> , Tahara K, Itagaki A, Hiramitsu Y, Tajima T	Novel Genetic Variants of Anaplasma phagocytophilum, Anaplasma bovis, Anaplasma centrale, and a Novel Ehrlichia sp. in Wild Deer and Ticks on Two Major Islands in Japan	Appl Environ Microbiol	72 (2)	1102-1109	2006
Kobayashi-Sakamoto M, Hirose K, Nishikawa M, <u>Isogai E</u> , Chiba I	Osteoprotegerin protects endothelial cells against apoptotic cell death induced by Porphyromonas gingivalis cysteine proteases	FEMS Microbiol Lett	264 (2)	238-245	2006
小林奈津実, 西川武志, 岡安多香子, 山田玲子, 磯貝恵美子, 磯貝 浩, 山下利春	カテキン含有飲料のサルモネラに対する殺菌および増殖抑制効果の検討	四国医学雑誌	62 (1,2)	43-48	2006
Asahi A, <u>Kuwana M</u> , Suzuki H, Hibi T, Kawakami Y, and Ikeda Y	Effects of <i>Helicobacter pylori</i> eradication regimen on anti-platelet autoantibody response in infected and uninfected patients with idiopathic thrombocytopenic purpura	Haematologica	91 (10)	1436-1437	2006
<u>Kuwana M</u>	Potential benefit of statins for vascular disease in systemic sclerosis	Curr. Opinion Rheumatol	18 (5)	594-600	2006
Yamazaki R, <u>Kuwana M</u> , Mori T, Okazaki Y, Kawakami Y, Ikeda Y, and Okamoto S	Prolonged thrombocytopenia after allogeneic haematopoietic stem cell transplantation: Associations with impaired platelet production and increased platelet turnover	Bone Marrow Transplant	38 (5)	377-384	2006
Ohnishi Y, Tsutsumi A, Matsumoto I, Goto D, Ito S, <u>Kuwana M</u> , et al.	Altered peptide ligands control type II collagen-reactive T cells from rheumatoid arthritis patients	Mod. Rheumatol	16 (4)	226-228	2006
<u>Kuwana M</u> , et al.	Preliminary laboratory-based diagnostic criteria for immune thrombocytopenic purpura: Evaluation by multi-center prospective study	J. Thromb. Haemost	4 (9)	1936-1943	2006
<u>Kuwana M</u> , Kaburaki J, Okazaki Y, Miyazaki H, and Ikeda Y	Two types of autoantibody-mediated thrombocytopenia in patients with systemic lupus erythematosus	Rheumatology	45 (7)	851-854	2006
<u>Kuwana M</u> , et al.	Increase in circulating endothelial precursors by atorvastatin in patients with systemic sclerosis	Arthritis Rheum	54 (6)	1946-1951	2006
<u>Kuwana M</u> , Ikeda Y	<i>Helicobacter pylori</i> and immune thrombocytopenic purpura: unsolved questions and controversies	Int. J. Hematol			in press
<u>Kuwana M</u> , Okazaki Y, Kodama H, Satoh T, Kawakami Y, and Ikeda Y	Endothelial differentiation potential of human monocyte-derived multipotential cells	Stem Cells			in press
Takahashi H, Amagai M, Tanikawa A, Suzuki S, Ikeda Y, Nishikawa T, Kawakami Y, and <u>Kuwana M</u>	T helper 2-biased natural killer cell phenotype in patients with pemphigus vulgaris	J. Invest. Dermatol			in press
Kajihara M, Okazaki Y, Kato S, Ishii H, Kawakami Y, Ikeda Y, and <u>Kuwana M</u>	Evaluation of platelet kinetics in patients with liver cirrhosis: Similarity to idiopathic thrombocytopenic purpura	J. Gastroenterol. Hepatol			in press

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Namboodiri AM, Rocca KM, <u>Kuwana M</u> , Pandey JP	Antibodies to human cytomegalovirus protein UL83 in systemic sclerosis.	Clin Exp Rheumatol	24 (2)	176-178	2006
Nakamura M, Tanaka Y, Satoh T, Kawai M, Hirakata M, Kaburaki J, Kawakami Y, Ikeda Y, <u>Kuwana M</u>	Autoantibody to CD40 ligand in systemic lupus erythematosus: association with thrombocytopenia, but not thromboembolism	Rheumatology	45 (2)	150-156	2006
Kodama H, Inoue T, Watanabe R, Yasutomi D, Kawakami Y, Ogawa S, Mikoshiba K, Ikeda Y, <u>Kuwana M</u>	Neurogenic potential of progenitors derived from human circulating CD14 <sup>+</sup> monocytes	Immunol Cell Bio	84 (2)	209-217	2006
<u>Suzuki N</u> , Narea K, Suzuki T	Skewed Th1 responses caused by excessive expression of Txk, a member of Tec family tyrosine kinases in patients with Behcet's disease	Clinical Medicine and Research	4 (2)	147-151	2006
Yoshikawa H, Nara K, <u>Suzuki N</u>	Recent advances in neuro-endocrine-immune interactions in the pathophysiology of rheumatoid arthritis	Current Rheumatology Reviews	2	193-207	2006
Yoshikawa H, Kurokawa SM, Ozaki N, Nara K, Atou K, Takada E, Kamochi H, <u>Suzuki N</u>	Nicotine inhibits the production of proinflammatory mediators in human monocytes by suppression of I-kB phosphorylation and NF-kB transcriptional activity through nicotinic acetylcholine receptor $\alpha 7$	Clinical and Experimental Immunology	146 (1)	116-123	2006
Hamada M, Yoshikawa H, Ueda Y, Kurokawa SM, Watanabe K, Sakakibara M, Akashi K, Aoki H, <u>Suzuki N</u>	Introduction of MASH1 gene into mouse embryonic stem cells leads to differentiation of motoneuron precursors lacking Nogo receptor expression that can be applicable for transplantation to spinal cord injury	Neurobiology of Disease	22 (3)	509-522	2006
Kamochi H, Kurokawa SM, Yoshikawa H, Ueda Y, Masuda C, Takada E, Watanabe K, Sakakibara M, Natuki Y, Kimura K, Beppu M, Aoki H, <u>Suzuki N</u>	Transplantation of myocyte precursors derived from embryonic stem cells transfected with IGFII gene in a mouse model of muscle injury	Transplantation	82 (4)	516-526	2006
Nagaya M, Kubota S, <u>Suzuki N</u> , Akashi K, Mitaka T	Thermoreversible gelation polymer induces the emergence of hepatic stem cells in the partially injured rat liver	Hepatology	43 (5)	1053-1062	2006
Maruyama T, Nara K, H Yoshikawa, <u>N Suzuki</u>	Txk, a member of the non-receptor tyrosine kinase of the Tec family, forms a complex with poly (ADP-ribose) polymerase 1 and elongation factor 1a and regulates interferon-g gene transcription in Th1 cells	Clinical and Experimental Immunology			in press
野中信宏, 池島秀明, 黒川真奈絵, 高田えりか, 中野弘雅, 大岡正道, 今村愉子, 松田隆秀, 鈴木 登	神経ベーチェット病患者の病態形成における炎症性サイトカインの果たす役割	聖マリアンナ医科大学雑誌			印刷中
Kazuhide Akiyama, Jiro Numaga, Atsushi Yoshida, <u>Hidetoshi Kawashima</u> , et al.	Statistical Analysis of Endogenous Uveitis at Tokyo University Hospital (1998-2000)	Jpn J Ophthalmol	50	69-71	2006
Mingcong Wang, Atsushi Yoshida, <u>Hidetoshi Kawashima</u> , Hiroshi Takahashi, and Junko Hori	Immunogenicity and antigenicity of allogeneic amniotic epithelial transplants grafted to the cornea, conjunctiva, and anterior chamber	Invest Ophthalmol Vis Sci	47	1522-1532	2006

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Russel W. Reed. Et al	Evaluation Of The Effect On Outcomes Of The Route Of Administration Of Corticosteroids In Acute Vogt-Koyanagi-Harada Disease	Am J Ophthalmol	142	119-124	2006
<u>川島秀俊</u>	皮膚・感覚器系の解剖・生理と疾病～眼	眼科関連 MR 研修テキスト I (2006年版)		257-259	2006
<u>川島秀俊</u>	皮膚・感覚器系の検査と治療～眼科領域	眼科関連 MR 研修テキスト I (2006年版)		264-266	2006
<u>川島秀俊</u>	皮膚・感覚器系の主な疾病と治療ポイント～緑内障	眼科関連 MR 研修テキスト I (2006年版)		272-274	2006
<u>Takeo M, Ishigatsubo Y</u>	Behcet's disease and familial Mediterranean fever	Intern Med	45 (13)	805-806	2006
Sato T, Takeo M, Honma K, Yamauchi H, Saito Y, Sasaki T, Morikubo H, Nagashima Y, Takagi S, Yamanaka K, Kaneko T, <u>Ishigatsubo Y.</u>	Heme oxygenase-1, a potential biomarker of chronic silicosis, attenuates silica-induced lung injury	Am J Respir Crit Care Med	15:174 (8)	906-914	2006
Kobayashi H, Takeo M, Saito T, Takeda Y, Kirino Y, Noyori K, Hayashi T, Ueda A, <u>Ishigatsubo Y.</u>	Regulatory role of heme oxygenase 1 in inflammation of rheumatoid arthritis	Arthritis Rheum	54 (4)	1132-1142	2006
<u>石ヶ坪良明</u>	Heme oxygenase-1 (HO-1) と炎症性疾患	リウマチ科	35 (1)	52-57	2006
<u>桐野洋平, 岳野光洋, 石ヶ坪良明</u>	血球貪食症候群および成人 Still 病における血清 hemeoxygenase-1 (HO-1) の高発現とその意義	臨床免疫	45 (1)	75-78	2006
Kirino Y, Takeo M, Murakami S, Kobayashi M, Kobayashi H, Miura K, Idecuchi H, Ohno S, Ueda A, <u>Ishigatsubo Y</u>	Tumor necrosis factor-alpha accelerates inflammatory responses by down regulating heme oxygenase-1 in human peripheral monocytes	Arthritis Rheum			in press
Itoh Y, Inoko H, Kulski JK, Sasaki S, Meguro A, Takiyama N, Nishida T, Yuasa T, Ohno S, <u>Mizuki N</u>	Four-digit allele genotyping of the HLA-A and HLA-B genes in Japanese patients with Behcet's disease by a PCR-SSOP-Luminex method	Tissue Antigens	67 (5)	390-394	2006
Chen X, Katoh Y, Nakamura K, Oyama N, Kaneko F, Endo Y, Fujita T, Nishida T, <u>Mizuki N</u>	Single nucleotide polymorphisms of Ficolin 2 gene in Behcet's disease	J Dermatol Sci	43 (3)	201-205	2006
Yanagihori H, Oyama N, Nakamura K, <u>Mizuki N</u> , Oguma K, Kaneko F	Role of IL-12B promoter polymorphism in Adamantiades-Behcet's disease susceptibility: An involvement of Th1 immunoreactivity against Streptococcus Sanguinis antigen	J Invest Dermatol	126 (7)	1534-1540	2006
Sasaki S, Inoko H, Ota M, Katsuyama Y, Okada E, Hasumi Y, Hayashi T <sup>1</sup> , Inamori Y, Nishizaki R, Mok J, Oka A, Kimura T, Kulski JK, Ohno S, <u>Mizuki N</u>	A Single Nucleotide Polymorphism analysis in the LAMA1 gene in the Japanese patients with high myopia	Clinical Ophthalmol			in press
Katsuyama Y, Ota M, <u>Mizuki N</u> , et al.	MDR1 polymorphisms effect cyclosporine AUC0-4 in Behcet's disease patients	Clinical Ophthalmol			in press
Horie Y, Takemoto Y, Miyazaki A, Namba K, Kase S, Yoshida K, <u>Mizuki N</u> , Ohno S	Tyrosinase gene family and Vogt-Koyanagi-Harada disease in Japanese patients	J Mol Vis			in press